

**[成果情報名]造粒石灰を用いたシイタケ人工ホダ場のナメクジ被害の抑制**

[要約]造粒石灰を 800g/m<sup>2</sup> 地面に散布することで、ナメクジのホダ木進入を阻止し、シイタケ被害を抑制できる。

[キーワード]ナメクジ、シイタケ、消石灰

[担当]長崎県農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分]林業

[分類]指導

[作成年度]2020 年度

---

**[背景・ねらい]**

シイタケ人工ホダ場はナメクジの繁殖に最適な環境であり、生産量の 2 割程度が被害を受けている。室内試験では、身近な資材の中で造粒石灰（消石灰をペレット状に固めた防疫資材）や粒状消石灰（土壌改良材）が、強アルカリ性、かつ、水に溶けにくいことから抑制資材として最も有望であった（2019 成果情報）。そこで、シイタケ生産をしている人工ホダ場の地面に造粒石灰を散布し被害の抑制効果を検証した（写真 1）。

**[成果の内容・特徴]**

1. 造粒石灰を地面に散布することでナメクジ被害が抑制される（写真 1、表 1、図 1）。
2. 散布量 800g/m<sup>2</sup>（地面被覆率 20%）では、被害がない（図 1）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 試験地の設定時に原木に付着しているナメクジと卵をすべて除去した。
2. 散布時期は、石灰分がシイタケに付着することがないように、芽切りの 1 ヶ月程度前とするなどの配慮が必要である。
3. 消石灰は、強アルカリであることから川への直接流出や林木に影響を与えない等の配慮が必要である。
4. 造粒石灰は高価であることから、代替資材である粒状消石灰により効果や経済性を検証するため、対馬試験地で 2020 年 10 月 29 日から現地検証中である。

**[試験区概要]**

1. 試験地は、対馬市巖原町小浦地区のシイタケ人工ホダ場のハウス内である。
2. 試験は 3 散布区分の 3 反復で実施した。なお、1 散布区は 1.2m×4.5m である。
3. 試験期間：2020.1.9 ～2020.3.12、64 日間である。

[具体的データ]



写真1 試験地の状況（対馬試験区）

表1 造粒石灰散布量別のシイタケ被害率

m <sup>2</sup> 当散布量	被害率%
800g散布	0.00a
400g散布	0.51a
対照区 (無散布)	1.58b

Tukeyの多重比較により異文字間で5%水準で有意差あり(p<0.05)

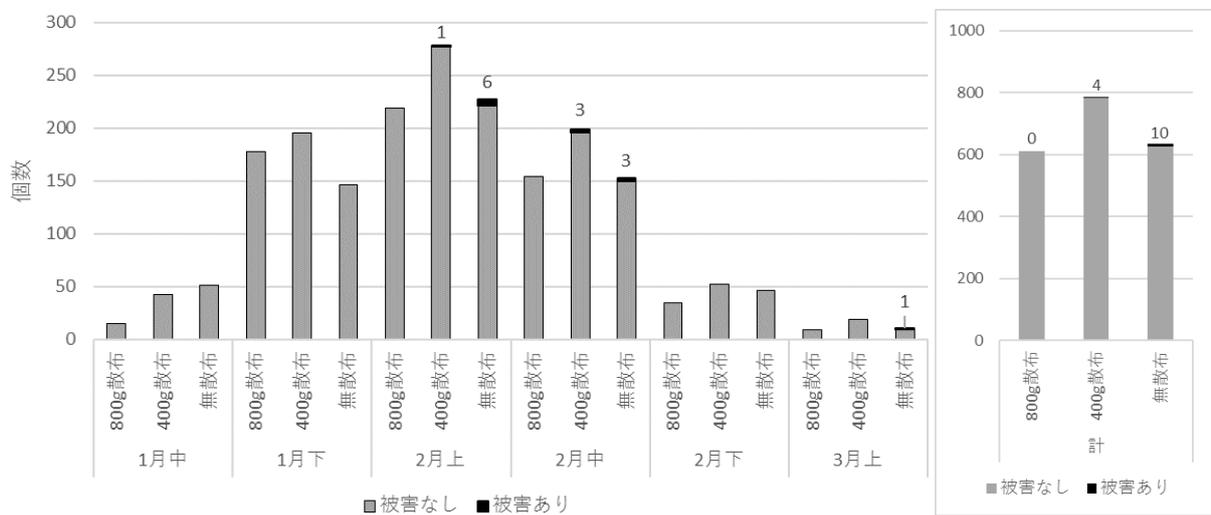


図1 シイタケ全個数の散布量別の被害状況推移

[その他]

研究課題名：対馬農林業振興協議会事業

予算区分：委託

研究期間：2019～2020年度

研究担当者：近重朋晃、副山浩幸